

# 「結婚」や「家事分担」に関する 男女の意識の違い

～ISSP 国際比較調査（家庭と男女の役割）・日本の結果から～

世論調査部 小林利行

NHK 放送文化研究所は、国際比較調査の一環として、2012年11月から12月にかけて「家庭と男女の役割」をテーマに世論調査を実施した。各国の結果が出そろって比較ができるようになるのは数年後になるため、今回は日本の結果のみを報告する。

調査結果からは▽「結婚している人のほうが幸せ」と考える人は男性より女性で少ない、▽母親については「子どもが小学校入学前は家にいて入学後はパートタイムで働く」ほうがよいという人が男女ともに多い、▽家事分担の割合が夫に比べて「かなり多い」と考える女性が半数近くいることなどが明らかになった。

また働いている女性に、家事分担に関する「不公平感」や子どもを持つことについての「負担感」が強い傾向があることも分かった。

夫の家事時間が長くなるほど「結婚している人のほうが幸せ」と思わない女性が減少する傾向があることも読み取れ、家事に関する夫の協力の度合いが結婚に対する意識に影響している可能性が示唆された。

## はじめに

NHK 放送文化研究所が参加している国際比較調査グループISSP (International Social Survey Programme)<sup>1)</sup>では、毎年テーマを設定して、各国共通の質問文で世論調査を行っている。2012年の調査テーマは「家庭と男女の役割」だった<sup>2)</sup>。各国の結果がそろって国際比較できるようになるのは数年後になる見通しで、今回は日本の結果のみを報告する。

このレポートでは、家事分担や結婚・子どもを持つことについての意識など全体的な調査結果を紹介するとともに、「働く女性」に着目した分析を報告する。

今回の調査の概要は以下のとおりである。

調査時期：2012年11月24日～12月2日

調査方法：配付回収法

調査対象：全国の16歳以上の男女

調査相手：住民基本台帳から層化無作為2段抽出の1,800人(12人×150地点)

調査有効数(率)：1,212人(67.3%)

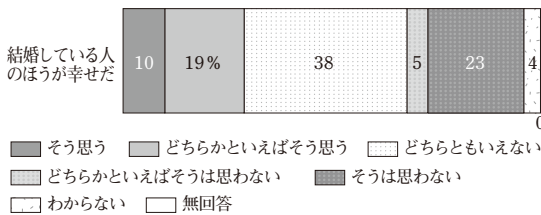
単純集計結果およびサンプル構成は53～58ページに掲載している。本文や図表中には、スペースの都合で質問文を意識したところもあるため、全文を確認したい場合は単純集計結果を参考にされたい。なお、各国の意見を取り入れた質問文であり、日本の実情にはややなじまないものも含まれている。

# 1. 結婚

## (1) 男性で多い「結婚している人 幸せ」

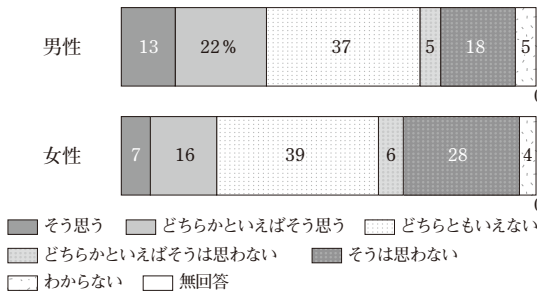
まず、「結婚観」についてみていく。「結婚している人のほうが、結婚していない人より幸せだ」と思うかどうか尋ねたところ、「どちらともいえない」と答えた人が38%と一番多くなった。『そう思う（「どちらかといえば」を含む）』<sup>3)</sup>は28%<sup>4)</sup>で、『そうは思わない（「どちらかといえば」を含む）』(29%)と同程度だった(図1)。

図1 結婚している人のほうが幸せ (全体)



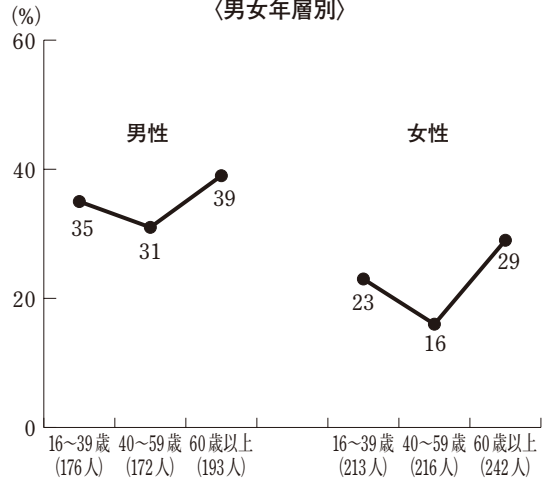
男女別にみると『そう思う』という人は男性35%・女性23%と男性が多い一方で、『そうは思わない』は男性23%・女性33%と女性が上回り<sup>5)</sup>、男性のほうが「結婚している人のほうが幸せだ」と考える傾向がみられた(図2)。

図2 結婚している人のほうが幸せ (男女別)



『そう思う』という人を男女年層別にみたのが図3である。全ての年層で男性のほうが多い。

図3 結婚している人のほうが幸せ  
『そう思う（「どちらかといえば」を含む）』  
(男女年層別)

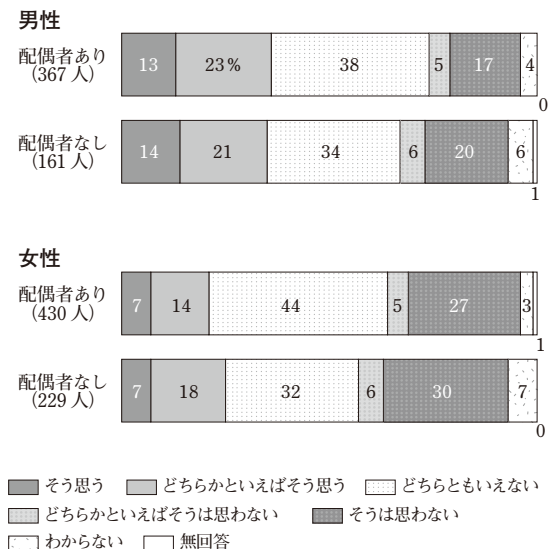


男女とも40～59歳で他の年層より低くなる傾向がみられた。

## (2) 配偶者のいる男女で意識差

「結婚している人のほうが幸せだ」という質問に関して、さらに詳しくみていく。男女を配偶者(パートナー)の有無別<sup>6)</sup>にみると(図4)。

図4 結婚している人のほうが幸せ  
(男女配偶者有無別)



配偶者のいる男性では『そう思う』が『そうは思わない』を上回っていた。配偶者のいない男性は差がなかった。

一方、配偶者のいる女性では『そうは思わない』が『そう思う』を上回っていた。配偶者のいない女性には差はなかった。

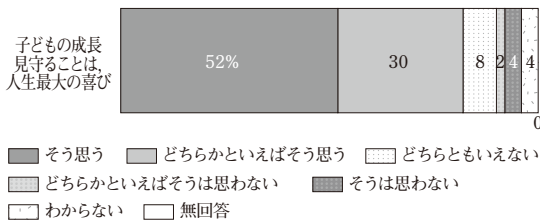
配偶者のいる女性では「どちらともいえない」が44%に上っていることに留意する必要があるが、配偶者のいる男女といない男女では「結婚は幸せ」という考え方に違いがあることがうかがわれる。

## 2. 子どもと仕事

### (1) 子どもの成長見守ることは「喜び」

次に子どもに関する結果を紹介する。「子どもの成長を見守ることは、人生最大の喜び」だと思うかどうか尋ねたところ、『そう思う』という人は8割以上に達した(図5)。

図5 子どもの成長「人生の喜び」〈全体〉



男女別で差はなく、年層別ではおおむね年齢が上がるほど『そう思う』という人が増える傾向にある。

子どもを持ったことのある人では、『そう思う』が89%、ない人では68%と、子どもを持ったことのあるほうが「喜び」と思う人が多い。

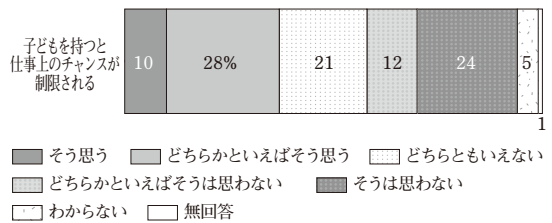
### (2) 働く女性に「負担感」

この調査では「子どもを持つこと」に関する「負担感」についても尋ねている。

「子どもを持つと仕事上のチャンスが制限される」と思うかどうか尋ねたところ、『そう思う』が38%、『そうは思わない』は36%と意見が割れている(図6)。

男女別にみると、『そう思う』という人は男性33%・女性43%と女性で多くなる。

図6 子ども「仕事上のチャンス制限」〈全体〉

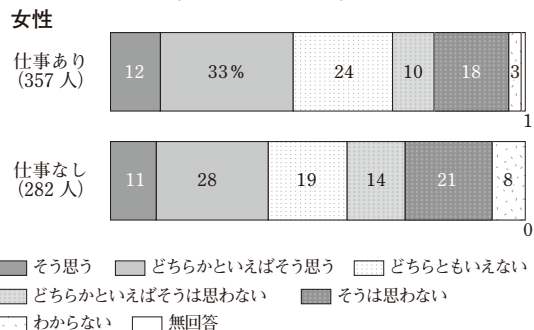


女性の中でも仕事をしている人と、していない人ではどう違うのだろうか(図7)。

仕事を持つ女性<sup>7)</sup>は『そう思う』が『そうは思わない』を上回った。仕事を持たない女性では、『そう思う』と『そうは思わない』で差はなかった。

なお、仕事を持つ女性の中で子どもを持つ

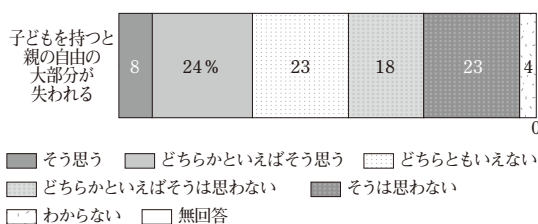
図7 子ども「仕事上のチャンス制限」〈女性仕事有無別〉



たことがあるかどうかでみてみると、『そう思う』はある人が44%，ない人が46%と差はなかった。

では「子どもを持つと親の自由の大部分が失われる」という質問に対してどう答えたかをみてみると、『そうは思わない』が41%で『そう思う』の32%を上回った(図8)。「そう思う」という人を男女別にみても差はなかった。

図8 子ども「親の自由失われる」(全体)

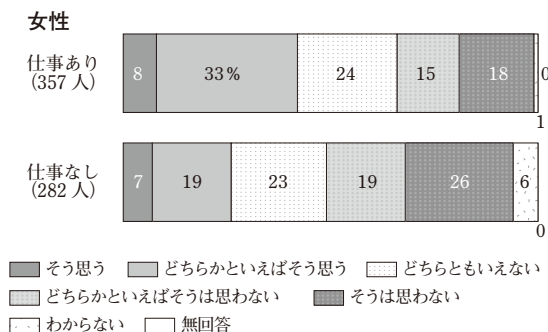


これも女性の仕事の有無別にみると、仕事を持つ女性では『そう思う』と『そうは思わない』に差はなかった。一方、仕事を持たない女性では『そうは思わない』が『そう思う』より多くなった。

『そう思う』という人は、仕事を持つ女性では41%と仕事を持たない女性の26%を上回った(図9)。

また、仕事を持つ女性の中で子どもを持つ

図9 子ども「親の自由失われる」(女性仕事有無別)



たことがあるかどうかでみてみると、『そう思う』はある人が37%，ない人が49%となり、ない人が上回った。子どものいない若い人には、「子どもを持つことは大変そう」というイメージがあるのかもしれない。

以上のように、「子どもを持つ」ことに関しては、仕事を持つ女性の間には何らかの負担を感じている人が多いようだ。

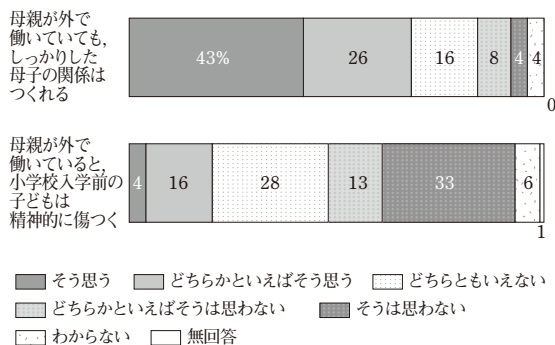
### (3) 働く母親、子どもに悪影響少ない

続いて女性と仕事、そしてそれが子どもに与える影響についてみていく。

「母親が外で働いていても、しっかりした母子の関係はつくれる」という質問に対して、『そう思う』と答えた人は、7割近くを占めている(図10)。

『そう思う』を男女別にみると、女性(71%)のほうが男性(65%)より多かった。

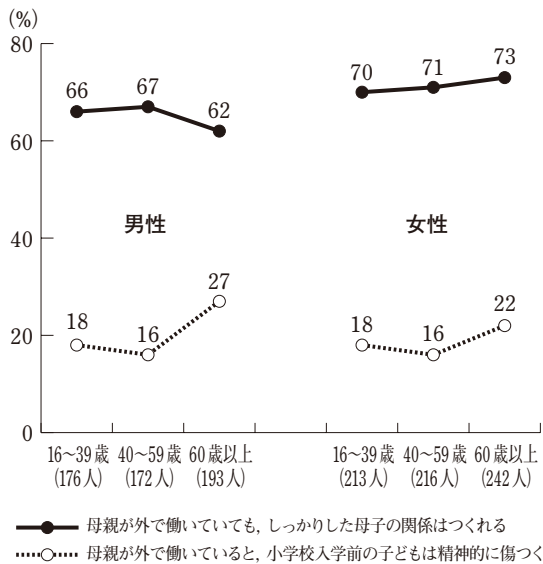
図10 働く母親と子どもの関係(全体)



一方、「母親が外で働いていると、小学校入学前の子どもは精神的に傷つくようだ」という問いに対して『そう思う』は2割にとどまり、母親が外で働いていることが子どもに悪影響を及ぼすと考える人は少ない。なお、『そう思う』という人を男女別にみても差はなかった。

この2つの質問の回答を男女年層別にみると、男性高齢層で他の年層との違いが目立つ(図11)。男性60歳以上では、「母親が外で働いていても、しっかりした母子関係はつくれる」で、『そう思う』という人は62%と全体より少ない一方、「母親が働いていると、小学校入学前の子どもは傷つく」で『そう思う』人は27%と全体より多くなっている。

図11 働く母親と子どもの関係  
『そう思う(「どちらかといえば」を含む)』  
(男女年層別)



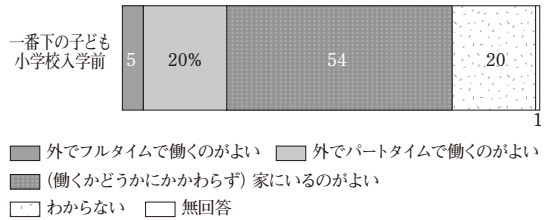
同じ高齢層でも女性にはみられない現象で、男性高齢層では、母親が外で働くことで子どもに何らかの悪影響が出ると考える人が多いようだ。

#### (4) 小学校入学前は家において 入学後はパート

女性の働く時期と働き方について尋ねたところ、「一番下の子どもが小学校に入学するまで」の時期では、「(働くかどうかにかかわらず)家

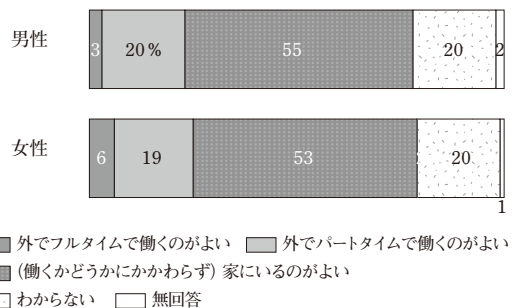
にいるのがよい」という人が54%と最も多かった(図12)。

図12 一番下の子ども小学校入学前(全体)



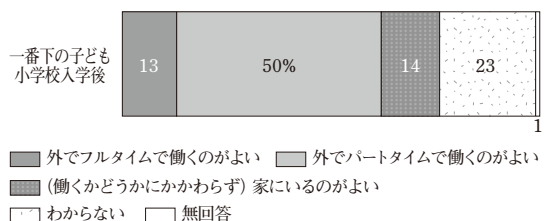
男女別にみると、「外でフルタイムで働くのがよい」が男性より女性で多くなっている。「家にいるのがよい」は男女で差はなかった(図13)。

図13 一番下の子ども小学校入学前(男女別)



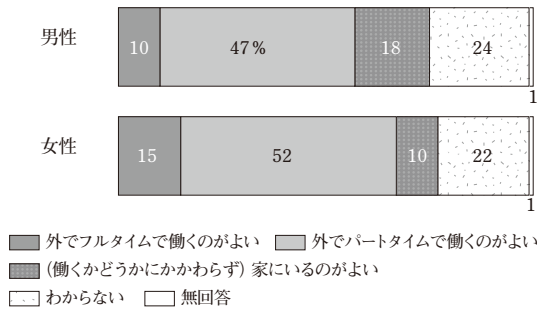
一方、「一番下の子どもが小学校に入学したあと」は、「家にいるのがよい」が14%と少なくなり、「外でパートタイムで働くのがよい」という人が50%と最も多くなっている(図14)。

図14 一番下の子ども小学校入学後(全体)



男女別にみると、「外でフルタイムで働くのがよい」と思う人が男性より女性で多く、「家にいるのがよい」という人は、女性より男性で多くなる(図15)。女性のほうが、母親に対しより積極的に就労することを望んでいるのが読み取れる。

図15 一番下の子ども小学校入学後(男女別)



全体的にみれば、母親が働くことが子どもに悪影響を及ぼすと考える人は少ないが、小学生ぐらいの子どもを持つ母親に対して働くことを無条件に容認しているわけではなく、「子どもが小学校入学前は家において、入学後はパートタイムで働いたほうがよい」という考えを持つ人が多いようだ。

### 3. 男女の役割分担

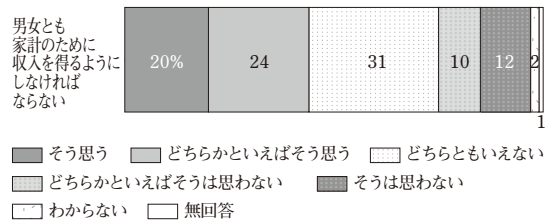
#### (1) 女性 30代以下で少ない

##### 「女性も収入」

最後に、男女の役割分担の実態や、それに対する意識の違いについてみていく。

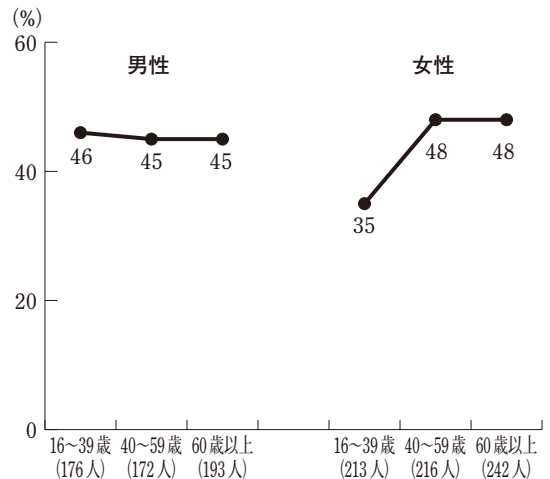
「男性も女性も家計のために収入を得るようになればならない」と思うかどうか尋ねたところ、『そう思う』が45%と、『そうは思わない』の22%を上回った(図16)。なお、『そう思う』という人を男女別にみても差はなかった。

図16 男女とも収入を得るべき(全体)



男女年層別では、女性39歳以下のみで、『そう思う』という人が全体より少なく(35%)なっている(図17)。

図17 男女とも収入を得るべき『そう思う(「どちらかといえば」を含む)』(男女年層別)



国立社会保障・人口問題研究所が継続的に行っている「結婚と出産に関する全国調査」によると、未婚者(18~34歳)の中で結婚の利点として「経済的余裕が持てる」という選択肢を挙げる人が、女性のみで増加傾向にある<sup>8)</sup>。この結果については、「夫だけでなく自分も働いて経済的余裕を持つ」という女性が増えていくと考えることも可能だが、夫に経済的に依存したいという考えが高まっていると捉えるこ

ともできるのではないだろうか。

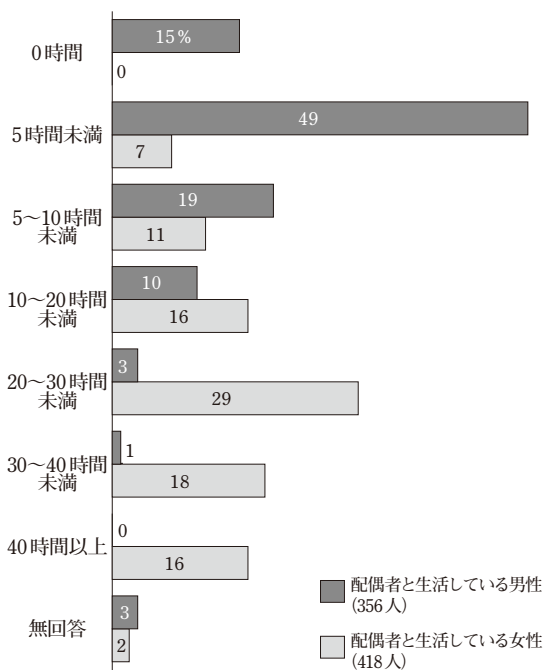
30代以下の女性に「男女とも収入を得るべき」という人が少ない理由の一つに、若い女性の中に「収入は夫に頼る」という意識が広がっていることがあるのかもしれない。

## (2) 長い女性の家事時間

次に家庭内での家事の分担をみていく。

配偶者と一緒に生活している人に、1週間にどのくらいの時間、家事(育児を除く)をしているか尋ねた結果が図18である。

図18 1週間の家事時間(育児を除く)  
〈配偶者と生活している男女別〉

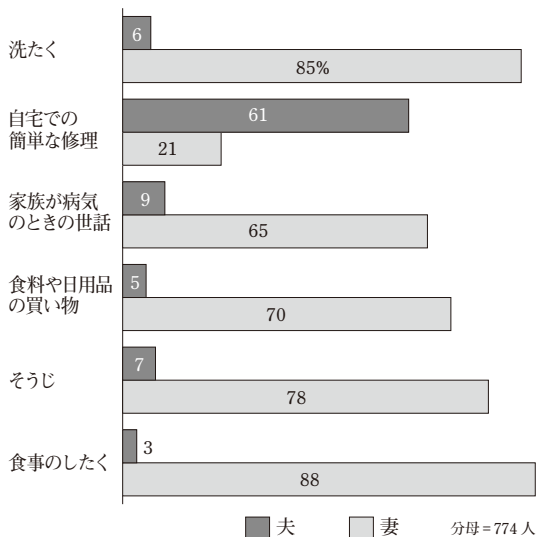


一見して、女性が家事をしている時間が男性よりかなり長くなっていることが分かる。男性では、1週間に5時間未満という人が5割近くいるほか、0時間という人も15%いた。なお、1週間の平均家事時間は、男性で約4時間半、

女性で約24時間だった。

図19は、配偶者と一緒に暮らしている人に「次のような家事を、誰がしているか」と尋ねた結果である<sup>9)</sup>。

図19 家事の種類別の分担  
〈配偶者と生活している「夫」「妻」別〉



ほとんどの家事を妻のほうが多くしていて、夫が多かったのは「自宅での簡単な修理」のみだった。「自宅での簡単な修理」以外で、夫が家事をしている割合は、いずれも1割未満だった。

## (3) 働く女性で多い家事分担の

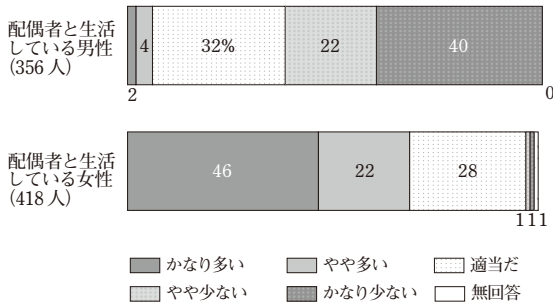
### 「不公平感」

男女の家事時間に差があることをみてきたが、その差についてはどう感じているのであるうか。

配偶者と一緒に生活している人に、「配偶者と自分の家事分担の割合についてどう思うか」と尋ねた結果が図20である。

女性では、「かなり多い」が46%、「やや多

図 20 家事分担の公平感  
 (配偶者と生活している男女別)

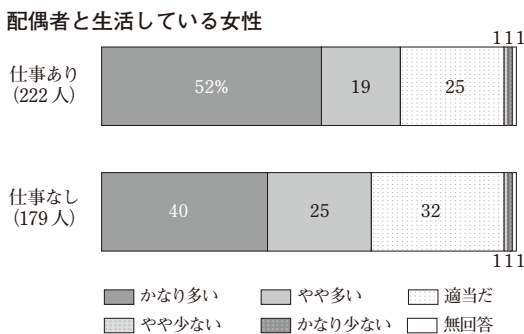


い」が22%となり、7割近くの女性が自分の家事分担の割合が多く不公平だと感じている。

一方、男性では「かなり少ない」が40%、「やや少ない」という人が22%いる。男性も家事分担の不公平さを自覚していないわけではないようだ。

女性についてもう少し詳しくみていく。配偶者と暮らしている女性を、仕事をしている人と、仕事をしていない人に分けて示したのが図21である。

図 21 家事分担の公平感  
 (配偶者と生活している女性仕事有無別)



仕事をしている女性で「かなり多い」と答えた人は半数以上の52%となり、仕事をしていない女性の40%を上回った。女性の中でも仕事の有無で不公平感に違いがあることが分かる。

## まとめ

ここまで、結婚や子ども、母親が働くこと、それに家庭での家事の分担などについての男女の意識をみてきた。

その結果、▽「結婚している人のほうが幸せ」と考える人は、男性より女性で少ないことや、▽母親は「子どもが小学校入学前は家において、入学後はパートタイムで働く」というスタイルがよいと考える人が男女ともに多いことが分かった。また、▽家事分担の割合が夫に比べて「かなり多い」という女性が半数近くいることなども明らかになった。

働いていない女性より働いている女性に、家事分担に関する「不公平感」や子どもを持つことについての「負担感」が強い傾向があることも分かった。

3章の(2)でみた1週間の平均家事時間について、女性の仕事の有無別にみると、働いている女性が約23時間、働いていない女性で約25時間半だった。その差はおよそ150分、1日にすれば20分強である。働いていても、働いていない女性とそれほど変わらない家事をこなしている現状が、「不公平感」や「負担感」を高める要因の一つになっているのではないだろうか。

女性で男性より、「結婚している人のほうが幸せ」と考える人が少ないことは、今回の調査結果のポイントの一つである。筆者(既婚男性)も含め、気にかかった男性も多いだろう。

結婚の満足感についての竹内(2007)<sup>10)</sup>の研究は、夫婦の会話や夫の家事参加を増やすことで、夫婦双方の満足感が高まる可能性を示唆している。

今回の調査結果でも、夫の1週間の家事時



間が長くなるほど、結婚が幸せと思わない女性が減る傾向があった(表1)。

表1 結婚している人のほうが幸せ  
(夫の1週間の家事時間(育児を除く)別)

【配偶者と生活している女性】		夫の1週間の家事時間 (育児を除く)			
		0時間	5時間 未満	5時間 以上	
		(%)	(92人)	(195人)	(113人)
結婚している人のほうが幸せ	『そう思う』	21	20	25	
	どちらともいえない	38	45	46	
	『そうは思わない』	37	33	26	
	わからない、無回答	4	2	4	

家事をする時間には男女で大きな差がある。ただし、男性の中に今の家事分担が「少ない」と思っている人が多いことは、今後の男女の役割分担に影響を及ぼすかもしれない。

家事分担の割合が「かなり多い」と考える女性が半数近くいるのは、世界的にみると高いのか低いのか。「結婚している人のほうが幸せ」と思う人が、男性より女性で少ないのは日本だけの現象なのか。各国のデータがそろった段階で改めて検証したい。

(こばやし としゆき)

注：

- 1) 1984年に発足し、現在約50の国・地域が加盟している。日本(NHK)は1993年の調査から参加している。質問文は、加盟国が出席して年1回開かれる総会などでの議論を経て決定される。
- 2) 「家庭と男女の役割」をテーマとした調査は、日本では1994年と2002年にも実施しているが、過去の調査が面接法だったのに対して、今回は配付回収法だったため調査結果の比較はしていない。
- 3) このレポートでは、今後『そう思う(「どちらかといえば」を含む)』は『そう思う』、『そうは思わない(「どちらかといえば」を含む)』は『そうは思わない』と省略して表記する。
- 4) 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」など、回答結果を足し上げる時には、実数で足して%を計算しているため、単純に%を足し上げたものと一致しない場合がある(以下同様)。
- 5) 信頼度95%の有意差検定による(以下同様)。
- 6) 「配偶者がいる人」は、「配偶者がいて一緒に生活している人」と「配偶者はいるが一緒に生活していない人」を合わせたもの。
- 7) 「仕事をしている人」には、「生徒・学生」や「主に家事をしている人」などは含まない。
- 8) この質問では、2つまで挙げてもらうという方法で選択肢を選んでもらっていて、女性で「経済的余裕が持てる」と回答した人は1992年の調査で8%だったが、2010年では15%となっている。
- 9) 男性で「いつも自分」「だいたい自分」、女性で「いつも配偶者」「だいたい配偶者」と回答した場合は「夫」、男性で「いつも配偶者」「だいたい配偶者」、女性で「いつも自分」「だいたい自分」と回答した場合は「妻」としている。
- 10) 永井暁子・松田茂樹編『対等な夫婦は幸せか』(勁草書房・2007年)第5章・竹内真純「夫のサポートが夫婦の結婚満足感を高める」

ISSP 国際比較調査（家庭と男女の役割） 日本の単純集計結果

【調査の概要】

1. 調査目的 ISSP（国際比較調査グループ）の加盟国が、「家庭と男女の役割」をテーマに共通の質問で実施する調査で、女性の就労、家事の分担、結婚や子どもを持つことに関する意識などを探る。
2. 調査時期 2012年11月24日（土）～12月2日（日）
3. 調査方法 配付回収法
4. 調査対象 全国の16歳以上の男女
5. 調査相手 住民基本台帳から層化無作為2段階抽出  
1,800人（12人×150地点）
6. 調査有効数（率） 1,212人（67.3%）

※第32問から第35問までは日本独自の質問

一女性の仕事と家庭一

第1問 はじめに、女性と仕事についてうかがいます。次のaからeのような考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない	5. そうは思わない	6. わからない	7. 無回答
(%)							
a. 母親が外で働いていても、働いていない母親と同じように、温かく、しっかりした母子の関係はつくれる	42.5	26.0	16.3	7.6	3.7	3.5	0.4
b. 母親が外で働いていると、小学校入学前の子どもは精神的に傷つくようだ	4.0	15.6	28.0	13.4	32.6	6.0	0.5
c. 母親がフルタイムで働いていると、家庭生活は損なわれるものだ	6.7	18.2	27.7	14.1	28.4	4.5	0.5
d. 仕事を持つのはいいことだが、女性の多くが本当に望んでいるのは家庭と子どもだ	14.9	17.7	30.8	12.0	18.1	5.9	0.7
e. 主婦として家事をすることも、働いて収入を得ることも、同じように充実したものだ	37.0	28.6	19.1	6.3	3.7	4.1	1.1

一家庭内の役割分担一

第2問 次のaとbのような考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

	1. そう思う	2. どちらかといえば	3. どちらともいえない	4. そうは思わない	5. どちらかといえば	6. わからない	7. 無回答
(%)							
a. 男性も女性も家計のために収入を得るようにしなければならない	20.3	24.3	31.2	9.9	12.1	1.6	0.7
b. 男性の仕事は収入を得ること、女性の仕事は家庭と家族の面倒をみることだ	7.8	16.2	24.9	13.0	36.2	1.5	0.4

一女性の仕事とライフステージ一

第3問 次のaとbのような時期に、女性が家の外で働くことについて、あなたはどのように思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

	1. 外働でフルタイムで	2. 外働でパートタイムで	3. 家にいるのがよい(働くかどうかわからず)	4. わからない	5. 無回答
(%)					
a. 一番下の子どもが小学校に入学するまで	4.8	19.7	53.9	20.2	1.4
b. 一番下の子どもが小学校に入学したあと	13.0	49.8	13.6	22.7	0.9

一結婚観一

第4問 次のaからdのような考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

	1. そう思う	2. どちらかといえば	3. どちらともいえない	4. そうは思わない	5. どちらかといえば	6. わからない	7. 無回答
(%)							
a. 結婚している人のほうが、結婚していない人よりだいたい幸せだ	9.8	18.6	38.0	5.4	23.3	4.4	0.4
b. 子どもが欲しい人は結婚するべきだ	42.7	27.9	13.4	3.5	8.9	3.2	0.3
c. 結婚するつもりがなくても、男女が同居するのは、かまわない	22.7	18.2	23.2	10.6	20.2	4.9	0.3
d. 結婚生活がうまくいかなかったら、たいしては離婚するのが一番よい	15.3	18.3	35.3	10.6	13.9	6.4	0.2

一子育て観一

第5問 さまざまなタイプの家族が子どもを育てています。次のaからcのような考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うかといえは	3. どちらともいえない	4. どちらかと思われない	5. そうは思わない	6. わからない	7. 無回答
a. 両親のどちらかがいなくても、両親のいる家庭と同じように子どもを育てることができる	17.4	19.6	22.2	18.8	16.9	4.6	0.5
b. 女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	10.3	12.5	18.7	14.1	22.6	21.3	0.5
c. 男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	7.8	10.6	19.1	13.4	27.7	20.8	0.5

一理想の子どもの数一

第6問 あなたは、一家族の理想の子どもの数は何人だと思えますか。

- 1. 0人 .....0.3%
- 2. 1人 .....1.2
- 3. 2人 .....39.4
- 4. 3人 .....50.7
- 5. 4人 .....4.7
- 6. 5人 .....1.2
- 7. 6人以上 .....0.3
- 8. 無回答 .....2.0

一子どもを持つこと一

第7問 次のaからfのような考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うかといえは	3. どちらともいえない	4. どちらかと思われない	5. そうは思わない	6. わからない	7. 無回答
a. 子どもの成長を見守ることは、人生の最大の喜びである	51.9	30.1	8.3	2.2	3.5	3.6	0.3
b. 子どもを持つと、親の自由の大部分が失われる	7.9	24.2	23.4	17.5	23.0	3.5	0.4
c. 子どもは、親にとって経済的な負担になる	12.4	26.5	19.0	11.9	26.2	3.5	0.5
d. 子どもを持つと、母親が父親、あるいは両親ともに、就職や仕事上のチャンスが制限される	9.7	28.4	20.5	12.0	23.5	5.4	0.7
e. 子どもを持つと、親の社会的信用が高くなる	13.1	23.9	26.4	7.5	19.8	8.3	0.9
f. 年老いた親の世話に関して、成長した子どもの役割は大きい	32.6	34.4	17.6	4.7	4.8	5.5	0.4

一子育て中の有給休暇取得の是非一

第8問 共働きのカップルに赤ちゃんが生まれて、子育てのために、片方の親がしばらく仕事を休むことになりました。あなたは、この親が有給休暇を取得できるようにすべきだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。なお、「有給休暇」とは、産前産後休業や育児休業も含みます。

- 1. そう思う .....87.7%
- 2. そうは思わない .....11.5
- 3. 無回答 .....0.8

一子育て中の有給休暇の期間一

第8問A [第8問で「1」(そう思う)とお答えの方に] 有給休暇の期間は、どのくらいあるべきだと思いますか。月単位でお答えください。

- 1. 1～6か月 .....43.8%
- 2. 7～12か月 .....35.6
- 3. 13～18か月 .....5.6
- 4. 19～24か月 .....8.7
- 5. 25か月以上 .....4.9
- 6. 無回答 .....1.4

(該当者=1,063人)

一子育て中の有給休暇の給与負担一

第9問 [第8問で「1」(そう思う)とお答えの方に] その場合、休んでいる期間の給料は誰が負担するべきだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. 政府や地方自治体 .....23.7%
- 2. 雇い主 .....11.3
- 3. 政府・地方自治体と雇い主の両方 .....54.0
- 4. その他 .....1.7
- 5. わからない .....8.7
- 6. 無回答 .....0.6

(該当者=1,063人)

一両親の有給休暇の取得割合一

第10問 [第8問で「1」(そう思う)とお答えの方に] では、このカップルが同じような労働条件や待遇で働いていて、2人とも有給休暇を取得できるとしたら、その取得期間を母親と父親の間でどのように分けるのがよいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。なお、「有給休暇」とは、産前産後休業や育児休業も含みます。

- 1. 母親がすべての期間を休み、父親は休まない .....18.5%
- 2. 母親がほとんどの期間を休み、父親は一部の期間を休み .....57.9
- 3. 母親と父親で、半分ずつ休み .....17.0
- 4. 父親がほとんどの期間を休み、母親は一部の期間を休み .....0.1
- 5. 父親がすべての期間を休み、母親は休まない .....0.1
- 6. わからない .....6.1
- 7. 無回答 .....0.3

(該当者=1,063人)

一就学前の子を持つ親の仕事(望ましい形)一

第11問 a 小学校入学前の子どもがいる家族にとって、家庭と仕事のあり方として最も望ましいのはどれだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. 母親は家において、父親はフルタイムで働く .....49.9%
- 2. 母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く .....32.1
- 3. 両親ともフルタイムで働く .....3.5
- 4. 両親ともパートタイムで働く .....0.9
- 5. 父親はパートタイムで働き、母親はフルタイムで働く .....0.0
- 6. 父親は家において、母親はフルタイムで働く .....0.0
- 7. わからない .....13.2
- 8. 無回答 .....0.4

—就学前の子を持つ親の仕事（望ましくない形）—

- 第11問 b では、最も望ましくないのはどれだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. 母親は家にいて、父親はフルタイムで働く ……3.9 %
  2. 母親はパートタイムで働き、父親はフルタイムで働く ……2.4
  3. 両親ともフルタイムで働く ……35.9
  4. 両親ともパートタイムで働く ……10.8
  5. 父親はパートタイムで働き、母親はフルタイムで働く ……2.6
  6. 父親は家にいて、母親はフルタイムで働く ……20.8
  7. わからない ……23.2
  8. 無回答 ……0.4

—就学前の子どもの世話—

- 第12問 小学校入学前の子どもの保育については、さまざまな意見があります。この時期の子どもの世話は、主に誰が担うべきだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. 家族 ……71.3 %
  2. 政府や地方自治体 ……10.3
  3. 非営利団体（慈善団体など） ……0.2
  4. 保育サービスを提供している民間の事業者（保育所やベビーシッターなど） ……10.6
  5. 親の雇い主 ……0.7
  6. わからない ……6.5
  7. 無回答 ……0.3

—就学前の子どもの保育料負担—

- 第13問 それでは、小学校入学前の子どもの保育料は、主に誰が負担するべきだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. 家族 ……55.0 %
  2. 政府や地方自治体 ……35.2
  3. 親の雇い主 ……1.0
  4. わからない ……8.3
  5. 無回答 ……0.6

—お年寄りの家事の手助け—

- 第14問 日常の買い物や家のそうじ、洗たくなどで助けを必要としているお年寄りがいます。あなたは、主に誰が手助けするべきだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. 家族 ……54.5 %
  2. 政府や地方自治体 ……18.5
  3. 非営利団体（慈善団体など） ……3.9
  4. 家事サービスを提供している民間の事業者 ……13.5
  5. わからない ……9.3
  6. 無回答 ……0.3

—お年寄りの手助けの費用負担—

- 第15問 では、お年寄りに対するこのような援助の費用は、主に誰が負担するべきだと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. お年寄り自身またはその家族 ……40.6 %
  2. 政府や地方自治体 ……45.9
  3. わからない ……13.0
  4. 無回答 ……0.5

—一週間の家事時間—

- 第16問 a あなた自身のことについてうかがいます。あなたは、一週間に何時間くらい家事をしていますか。育児や余暇の時間を除いてお答えください。
1. 0時間 ……11.2 %
  2. 5時間未満 ……29.9
  3. 5～10時間未満 ……15.5

4. 10～20時間未満 ……13.5
5. 20～30時間未満 ……13.8
6. 30～40時間未満 ……7.4
7. 40時間以上 ……6.3
8. 無回答 ……2.4

—一週間の家族の世話時間—

- 第16問 b あなたは、一週間に何時間くらい家族の世話をしていますか（子どもやお年寄り、病気や障害のある家族の世話を含めます）。
1. 0時間 ……32.0 %
  2. 5時間未満 ……22.6
  3. 5～10時間未満 ……14.7
  4. 10～20時間未満 ……10.4
  5. 20～30時間未満 ……6.0
  6. 30～40時間未満 ……2.8
  7. 40時間以上 ……5.9
  8. 無回答 ……5.6

—配偶者と一緒に生活しているか—

- 第17問 ところで、あなたは現在、配偶者（またはパートナー）と一緒に生活していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. 一緒に生活している ……63.9 %
  2. 一緒に生活していない ……35.8
  3. 無回答 ……0.3

—配偶者の一週間の家事時間—

- 第17問 A [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] あなたの配偶者（またはパートナー）についておたずねします。あなたの配偶者（またはパートナー）は、一週間に何時間くらい家事をしていますか。育児や余暇の時間を除いてお答えください。
1. 0時間 ……12.5 %
  2. 5時間未満 ……28.9
  3. 5～10時間未満 ……12.0
  4. 10～20時間未満 ……12.9
  5. 20～30時間未満 ……14.7
  6. 30～40時間未満 ……7.5
  7. 40時間以上 ……7.4
  8. 無回答 ……4.0
- （該当者＝774人）

—配偶者の一週間の家族の世話時間—

- 第17問 B [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] あなたの配偶者（またはパートナー）は一週間に何時間くらい家族の世話をしていますか（子どもやお年寄り、病気や障害のある家族の世話を含めます）。
1. 0時間 ……24.2 %
  2. 5時間未満 ……24.4
  3. 5～10時間未満 ……16.8
  4. 10～20時間未満 ……12.7
  5. 20～30時間未満 ……5.9
  6. 30～40時間未満 ……2.8
  7. 40時間以上 ……6.6
  8. 無回答 ……6.6
- （該当者＝774人）

一収入の管理状況一

第18問 [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] お宅の収入はどのように管理していますか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 自分がすべて管理し、配偶者（パートナー）には必要なだけ渡している …… 37.1 %
2. 配偶者（パートナー）がすべて管理し、自分は必要なだけもらっている …… 35.1
3. 収入はすべて共同で管理し、それぞれが必要なだけ持っていく …… 11.0
4. 収入の一部を共同で管理し、残りは2人が別々に持っている …… 8.4
5. 2人とも自分の収入は、自分で管理している …… 6.8
6. 無回答 …… 1.6

(該当者 = 774人)

一家事分担一

第19問 [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] 次のaからfのような家事は、お宅では誰がしていますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. いつも自分	2. だいたい自分	3. 2人が同じくらい、または共同で	4. だいたい配偶者（パートナー）	5. いつも配偶者（パートナー）	6. 2人以外の人	7. わからない	8. 無回答
a. 洗たく	38.4	12.0	5.8	13.0	28.3	1.4	0.3	0.8
b. 自宅での簡単な修理	20.4	30.5	13.2	20.2	11.1	2.7	1.0	0.9
c. 家族が病気のときの世話	24.7	19.4	19.3	16.0	13.3	1.9	3.5	1.9
d. 食料や日用品の買い物	24.3	19.3	22.7	16.8	14.7	1.3	0.4	0.5
e. そうじ	28.9	17.7	14.1	17.7	19.9	0.9	0.1	0.6
f. 食事のしたく	35.1	15.2	6.7	14.9	25.2	1.8	0.5	0.5

(該当者 = 774人)

一家事分担の公平感一

第20問 [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] あなたは、配偶者（またはパートナー）との家事分担の割合についてどう感じていますか。あなた自身が、適当と思う割合と比べてどう感じているか、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

自分がしている家事の割合は・・・

1. かなり多い …… 26.0 %
2. やや多い …… 13.6
3. 適当だ …… 30.0
4. やや少ない …… 10.9
5. かなり少ない …… 18.9
6. 無回答 …… 0.8

(該当者 = 774人)

一週末行事の決定権一

第21問 [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] 配偶者（またはパートナー）との週末の過ごし方について、最終的に決めるのは誰ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ほとんど自分 …… 16.8 %
2. ほとんど配偶者（パートナー） …… 10.7
3. そのときにより自分か、配偶者（パートナー） …… 48.4
4. 自分と、配偶者（パートナー）の2人で …… 21.7
5. 2人以外の人 …… 1.2
6. 無回答 …… 1.2

(該当者 = 774人)

一収入の割合一

第22問 [第17問で「1」（一緒に生活している）とお答えの方に] あなたと配偶者（またはパートナー）では、どちらが収入が多いですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 自分だけが収入がある …… 13.2 %
2. 自分の収入のほうがかなり多い …… 22.5
3. 自分の収入のほうがやや多い …… 7.4
4. 同じくらい …… 6.3
5. 配偶者（パートナー）の収入のほうがやや多い …… 9.9
6. 配偶者（パートナー）の収入のほうがかなり多い …… 25.7
7. 配偶者（パートナー）だけが収入がある …… 12.0
8. わからない …… 2.3
9. 無回答 …… 0.6

(該当者 = 774人)

一家庭と仕事の葛藤一

第23問 あなたは、この3か月の間に、次のaからdのようなことがどのくらいありましたか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. 週に数回	2. 月に数回	3. 1・2回	4. まったくない	5. あてはまらない 仕事をしていた なかった	6. 無回答
a. 仕事で疲れてしまい、家に帰ってから必要な家事をすることができなかった	12.9	14.2	10.6	24.8	35.6	2.0
b. 仕事の時間が長すぎて、家族に対する責任を十分に果たせなかった	9.7	9.8	11.4	29.5	37.6	2.0
c. 家事で疲れてしまい、職場に来てから仕事を十分に果たせなかった	1.1	3.2	6.8	48.8	37.8	2.3
d. 家庭での負担が重すぎて、仕事に集中するのが難しいと感じた	1.3	3.1	5.6	49.8	38.1	2.1

一幸福度一

第24問 あなたの今の生活は、全体として幸せだと思いますか。それとも幸せではないと思いますか。あなたのお気持ちに近い番号に1つだけ○をつけてください。

1. 非常に幸せである …… 11.5 %
2. 幸せである …… 27.8
3. まあ幸せである …… 39.7
4. どちらともいえない …… 12.4

- 5. あまり幸せではない .....4.1
- 6. 幸せではない .....1.7
- 7. まったく幸せではない .....0.7
- 8. わからない .....2.1
- 9. 無回答 .....0.1

**一仕事の満足度一**

第25問 あなたは、今の仕事について、全体としてどのくらい満足していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。2つ以上仕事をお持ちの方は、主な仕事についてお答えください。

- 1. 非常に満足している .....3.3 %
- 2. 満足している .....11.5
- 3. まあ満足している .....25.3
- 4. どちらともいえない .....12.6
- 5. あまり満足していない .....9.9
- 6. 満足していない .....2.6
- 7. まったく満足していない .....1.7
- 8. わからない .....2.1
- 9. 仕事をしていない .....29.2
- 10. 無回答 .....1.7

**一家庭生活の満足度一**

第26問 あなたは、今の家庭生活について、全体としてどのくらい満足していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. 非常に満足している .....9.7 %
- 2. 満足している .....23.4
- 3. まあ満足している .....41.2
- 4. どちらともいえない .....12.5
- 5. あまり満足していない .....6.9
- 6. 満足していない .....2.6
- 7. まったく満足していない .....1.5
- 8. わからない .....2.0
- 9. 無回答 .....0.2

**一健康状態一**

第27問 あなたは、ご自分の心や体の健康状態についてどう感じていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. 最高によい .....3.1 %
- 2. とてもよい .....11.6
- 3. よい .....20.1
- 4. 普通 .....45.2
- 5. よくない .....17.3
- 6. わからない .....2.6
- 7. 無回答 .....0.1

**一子どもの時の母親の仕事の有無一**

第28問 あなたが生まれてから14歳までの間に、あなたのお母さんは、ほぼ1年以上続けて働いて収入を得ていたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. はい .....56.5 %
- 2. いいえ .....32.1
- 3. わからない .....11.1
- 4. 無回答 .....0.2

**一子どもの有無一**

第29問 あなたは、子どもを持った経験がありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- 1. ある .....68.4 %
- 2. ない .....30.9
- 3. 無回答 .....0.7

**一末子の学校一**

第29問A [第29問で「1」(ある)とお答えの方に] 現在、あなたのお子さんで、年齢が一番下の方は次のうちどれにいらっしゃいますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。お子さんがお1人の場合は、そのお子さんについてお答えください。

- 1. 小学校入学前 .....15.9 %
- 2. 小学生 .....11.8
- 3. 中学生・高校生 .....9.2
- 4. それ以外 .....51.3
- 5. 今は子どもはいない .....11.2
- 6. 無回答 .....0.6

(該当者=829人)

**一外での仕事の有無一**

第29問B [第29問で「1」(ある)とお答えの方に] あなたは、次のaとbのような時期に外で働いていましたか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。なお、一番下のお子さんが小学校に入学していない場合は、a、bともに「4 どれもあてはまらない」にそれぞれ○をつけてください。

	1. 外でフルタイムで働いていた	2. 外でパートタイムで働いていた	3. かかわらず(働いていたかどうか)に家	4. どれもあてはまらない	5. 無回答
	(%)				
a. 一番下の子どもが小学校に入学するまで	36.4	9.2	23.9	28.8	1.7
b. 一番下の子どもが小学校に入学したあと	38.0	17.4	14.4	28.5	1.8

(該当者=829人)

**一配偶者の外での仕事の有無一**

第30問 [第29問で「1」(ある)とお答えの方に] あなたの配偶者(またはパートナー)についておたずねします。次のaとbのような時期に、あなたの配偶者(またはパートナー)は、外で働いていましたか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。なお、一番下のお子さんが小学校に入学していない場合は、a、bともに「4 どれもあてはまらない」にそれぞれ○をつけてください。

	1. 外でフルタイムで働いていた	2. 外でパートタイムで働いていた	3. かかわらず(働いていたかどうか)に家	4. どれもあてはまらない	5. 無回答
	(%)				
a. 一番下の子どもが小学校に入学するまで	43.3	7.8	21.5	25.6	1.8
b. 一番下の子どもが小学校に入学したあと	43.5	13.4	15.2	25.2	2.7

(該当者=829人)

—子育て方針の決定権—

第31問 [第29問で「1」(ある)とお答えの方に] お宅では、ふだん、子育ての方針を決めるのはどなたですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。子育てが終わった方は、子育て中のときのことをお答えください。

1. ほとんど自分 …………… 20.5 %
2. ほとんど配偶者(またはパートナー) …………… 10.3
3. そのときにより自分か、  
配偶者(またはパートナー) …………… 25.9
4. 自分と、配偶者(またはパートナー)の2人で … 38.8
5. 2人以外の人 …………… 0.5
6. いずれもあてはまらない …………… 3.3
7. 無回答 …………… 0.7

(該当者=829人)

—結婚の必要性—

第32問 結婚についての考え方が次に示してありますが、あなたのお考えは、どちらに近いでしょうか。

1. 人は結婚するのが当たり前だ …………… 31.8 %
2. 必ずしも結婚する必要はない …………… 67.4
3. 無回答 …………… 0.7

—結婚後に子どもをもつこと—

第33問 では、次の2つでは、あなたのお考えはどちらに近いでしょうか。

1. 結婚しても、必ずしも子どもをもたなくてよい … 62.6 %
2. 結婚したら、子どもをもつのが当たり前だ …… 36.8
3. 無回答 …………… 0.6

—仕事と家庭の優先度—

第34問 仕事のために、家族の予定が犠牲になるのは仕方がないという考え方があります。あなたのお考えは次の2つのうち、どちらに近いでしょうか。

1. どちらかといえば、仕事を優先すべきだ …… 54.6 %
2. どちらかといえば、家族の予定を  
優先すべきだ …………… 43.9
3. 無回答 …………… 1.5

—少子化問題への関心—

第35問 あなたは、日本の少子化問題について、どの程度関心がありますか。次の4つのうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 非常に関心がある …………… 24.3 %
2. ある程度関心がある …………… 55.0
3. あまり関心がない …………… 17.7
4. まったく関心がない …………… 2.7
5. 無回答 …………… 0.2

●サンプル構成比

全体	性		年代						
	男性	女性	16~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,212人	541	671	58	125	206	197	191	229	206
100.0%	44.6	55.4	4.8	10.3	17.0	16.3	15.8	18.9	17.0

全体	男の年層							女の年層						
	16~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	16~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,212人	25	62	89	86	86	103	90	33	63	117	111	105	126	116
100.0%	2.1	5.1	7.3	7.1	7.1	8.5	7.4	2.7	5.2	9.7	9.2	8.7	10.4	9.6

全体	都市規模					地域ブロック					
	特別区と人口100万以上の市	人口30万以上の市	人口10万以上の市	人口5万以上の市町村	人口5万未満の市町村	北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1,212人	228	271	296	214	203	154	429	180	184	116	149
100.0%	18.8	22.4	24.4	17.7	16.7	12.7	35.4	14.9	15.2	9.6	12.3